

都市整備

鷹の台駅周辺整備と コミュニティバスの今後

木村まゆみ議員(共産) 鷹の台駅バリアフリー化、及び東口新設に向けての進捗状況は、まちづくり懇談会等でも出された意見は、どのように第三次長期総合計画に反映されるのか。高齢者等のために駅前無料優先駐輪場を確保できないか。コミュニティバスを不便地域にも、のしこつたえるか。

まずはせめて鷹の台駅までの声に対して、一日も早く実施するべきではないか。

市長 エレベーター等の設置は国等の補助金を前提に検討課題としているが、東口開設は経費等の増が見込まれるため、検討していないことである。現在行っている策定作業を通じて判断する。

現在のところ考えていない。試行運行期間の中で、運行事業の評価をしていきたい。駅に至る一方通行の道路拡幅整備が、課題となっている。

警察学校正門周辺の 都市基盤整備

浅倉成樹議員(公明) 警察学校正門西側の国交大通りの急カーブ改善計画と進捗状況は、正門付近のコンクリート塀がフェンスにかえられている。すべての塀が取りかえられる計画なのか。

国家公務員宿舎の跡地利用について、市がかかわりを持つことはできないか。また、跡地を通して警察学校北通りへ抜ける道路を整備できないか。

市長 今年度中に道路を整備する予定である。

あかしあ通りを含め、正門と同じ整備を要望していきたい。民間への売却を検討しているが、まちづくりの観点から調整は可能と考える。また、北へ抜ける道路整備は、自衛隊の敷地の一部を確保する必要が生じるため、実現は困難である。

警察学校正門西側



花小金井駅北口駅前広場の バリアフリー

華表 曉議員(共産) 基本的なバリアフリーの視点は、なぜ駅前広場全体をセミフラットにするのか。

バス乗降の際の段差をどう認識しているのか。視覚障害者のための歩道、信号、横断歩道等の設置は、北口全体のバリアフリーはどのようなものか。

市長 すべての人々が安全で安心して利用できる駅前広場を目指している。歩道と車道との段差を減少し、高齢者等の安全かつ円滑な

移動を図るためである。段差部分のみ、歩道を高くする等の検討をしている。視覚障害者誘導ブロックの設置等により、歩道空間を確保する。

だれでも安全に利用できるものを考えている。市道の整備工事の発注を9月に予定している。

小平駅西側開かずの踏切 1秒差で渋滞緩和できないか

永田政弘議員(政和) 小平駅西側踏切の現状は、今後の対応は、都に働きかける必要があると思うが、開放時間の問題、高齢者、障害者等のへの対応は、1秒設定変更するだけでかなりの解消策になるのでは、立体化実現の可能性は、閉まっている時間は1日どのくらいか。

市長 ボトルネック踏切なので対策が必要と考えている。都が設置予定の踏切対策推進会議の中で、対策の早期実現を要望していきたい。踏切遮断時間の短縮に努めており、高齢者等が安全に横断できるように配慮していると西武鉄道から聞いている。時間の設定変更は困難と聞いている。

小川駅西口周辺の まちづくりと安全策

西 克彦議員(共産) 西口整備について、関係地権者の見解はどうか。西口周辺の自転車駐車場の増設や、小川西町保育園通りの歩道の拡幅、丁字路部分の交通安全策の充実等を求める声があるがどうか。

都立小平養護学校移転跡地についての都の方針、計画は、小川駅前の都道にある、側溝のふたの欠損や、踏切の自転車滑り止め強化等の対処は、

萩山駅にエスカレーター、エレベーターの早期設置を

加藤俊彦議員(公明) 昨年6月定例会に一般質問したが、その後東村山市と西武鉄道には、どのように要望をしたか。

市長 東村山市に整備の要望をしたが、駅所在地の自治体の課題と考えていることであった。西武鉄道からは国などの補助金のめどがつけば、検討していくという回答があった。要請等を行ったことはない。難しいと考える。

小川駅西口

市長 東村山市に整備の要望をしたが、駅所在地の自治体の課題と考えていることであった。西武鉄道からは国などの補助金のめどがつけば、検討していくという回答があった。要請等を行ったことはない。難しいと考える。

医療健康

住田景子議員(緑ネ) 健康診査の応募状況と受診状況は、1人当たりの費用、予算額と決算額は、

市報でお知らせを出してから、何日で満員になるか。何回申し込みれば、受診できるのか。申し込み方法の改善や機会

の公平性確保を、今後考えてほしいがどうか。

市長 平成15年度の基本健康診査の集団健診では、3千86人の応募に対して、お断り者数は611人、実際の受診者数は2千67人であった。健診により違いはあるが、平成15年度全体では、1人当たり8千5百56円で、当初予算額は3億4千3百万8千円、決算額は3億6千3百26万2千円である。

小川駅西口

市長 東村山市に整備の要望をしたが、駅所在地の自治体の課題と考えていることであった。西武鉄道からは国などの補助金のめどがつけば、検討していくという回答があった。要請等を行ったことはない。難しいと考える。

清瀬小児病院統合で北多摩北部の小児救急医療は大丈夫か

島村雄雄議員(政和) 移転統合の経過は。廃院の時期は、この地域の小児専門医の数は市別に何人か。公立昭利病院の小児初期救急患者数は、

廃院後の患者受診はどうか。十分な対応は可能と考えるか。夜間の対応は、

市長 平成13年に策定されたプランで、清瀬小児病院等3病院を移転統合し、小児総合医療センターとして整備することになった。平成21年度末の開業まで清瀬小児病院は存続する。小平市が36人、東村山市が13人等である。患者数は平成14年度が6千98人と聞いている。代替施設の昭利病院等に受診するようになると思われる。市報でお知らせを出してから、何日で満員になるか。何回申し込みれば、受診できるのか。申し込み方法の改善や機会

児童女性

乳幼児医療費助成制度の 所得制限撤廃の拡大

西 克彦議員(共産) 所得制限の撤廃について市民の要望が強い。せめて3歳児まで所得制限の撤廃を願うがどうか。

次世代育成支援行動計画の数値目標づくりや市民への計画説明などに力を入れ、安心して子どもが医療を受けられるように願うがどうか。

市長 所得制限は、都の基準より緩和していることもあり、現行の基準で実施していきたい。今後は、素案を公表し、市民懇談会などで市民の意見を聞いた上で、行動計画を策定する予定である。

温かみのある 子育て支援策を

津本裕子議員(公明) 病後児保育の検討に進展はあるか。ファミリーサポートセンターの検討状況は、

子育て相談の現状は。市立保育園のふれあい広場を発展させる考えはあるか。産後ヘルパーの実現は。次世代育成支援に関する二一調査集計を活用できないか。市報でお知らせを出してから、何日で満員になるか。何回申し込みれば、受診できるのか。申し込み方法の改善や機会



お母さんと一緒に
(子ども家庭支援センター)

開設から約7か月間で307件の相談があり、発育や発達に関する相談が一番多い。子育てふれあい広場は公立保育園等の20か所で実施しており、平成15年度は393件の相談があった。さらなる充実を検討したい。実施の計画はない。行動計画を策定する中で、子育て支援策の充実を図る。

**男女共同参画社会と
ジェンダーフリー思想**

鴨打喜久男議員(政和) 男女共同参画社会基本法の目指す社会とジェンダーフリーの目指す社会の認識と、その相違点は、男らしさ、女らしさを否定する思想をどのように考えるか。ジェンダーフリーの使用に関する内閣府の考え方についての対応は、

**雨の日の子ども遊び場を
つくることができないか**

斎藤 敦議員(フオ) 次世代育成支援に関する二一調査で、雨の日の子ども遊び場がないという答えが1位となった。対応策はあるか。

市長 現在、雨の日に子どもが利用できる公共施設は、地域センター、花小金井南児童館等があるが、今後は小川町2丁目地区等にも児童館の建設予定があり、施設はふえる予定である。運営協議会での検討結果の提言の中に、展示室の一部をキッズルームとして活用するなど提案もあり、科学を体験しながら子どもたちが憩える場を提